

市長賞
緑風／山田桂子

私は緑色や木立が好きです。数年前、近隣の野山を散策中に、偶然出会った風景です。新緑と濃い葉の重なりは背後からの光を受け透明感が有り、もれる光はキラキラと輝いていました。

大きな緑の宝石のような情景は今でもハッキリと心に残っています。あの静寂で透明な雰囲気、色面で表現したいと思い制作しました。



京田辺芸術家協会賞
宴のあと／木全一榮

描きたい！スラリとしたピンクのワイン瓶を見た時思った。なぜか惹かれた。色か形か、華やかな青春への想いだったのか？飲み干した空の瓶達は、過ぎ去った日々の思い出。人生の半分の今は、まさしく「宴のあと」。デモ、ピンクのワイン瓶は凜としてたっている。

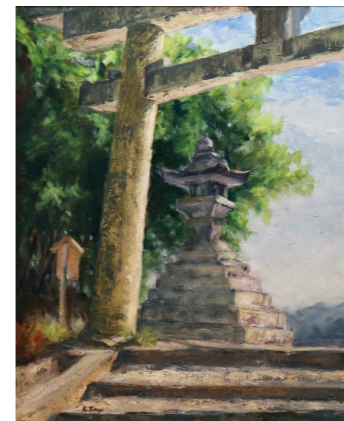
その景色に想いを重ねて描いた作品である。



京田辺市教育委員会賞
厳冬を耐えて／赤池京子

春めいた、3月初め、木津川に散歩に行き、橋の近くの田んぼで、収穫されずに冬を越し霜にうたれみごとに色の変化して、虹色に輝いているキャベツに感銘を受け、作品にしました。

これからも京田辺の美しい自然を描きたいと思います。ありがとうございました。



京田辺市文化協会賞
月読さん仰ぐ／高木勝枝

大住ヶ丘に越して来て40年近くなり、折々にふれ月読神社にお詣りして来ました。

先日、何気なく鳥居を見上げると大きく見え、色んな事があつた過去に浸り、さまざまな思いを込めて描いた作品です。



U18 審査員賞
窓の外／小西紀輝

この絵は、自己否定的な考えや孤立感を表そうとした作品です。元々は夢で見た光景だったのですが、そのままでは少し面白みに欠けるため、見た人が少しでも考察し、没頭できるようにメタ的な表現を交えつつ制作しました。

講評

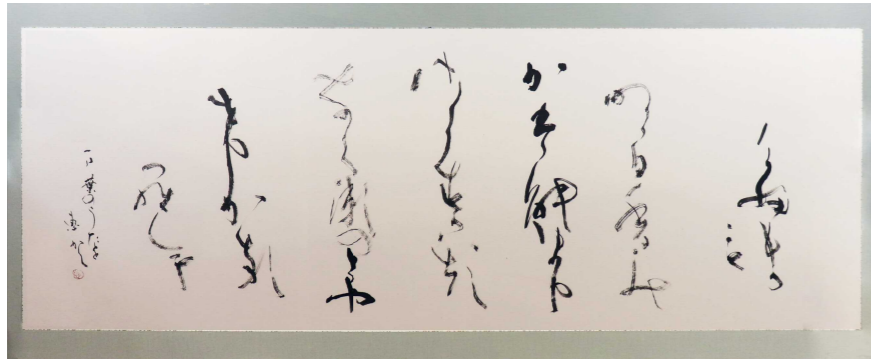
「緑風」と題された作品は、日射に照らされた小路の風景を描いたものであるが、太陽の光がどのように風景のなかに溶け込むのかが景観を通してよく見えていた。

「厳冬を耐えて」冬の寒さにたえたキャベツの様子がよく描かれていた。

「宴のあと」人々の散じて消えてしまった宴の後に、残された器物がもたらす残音が風景をつくりだしている。

「月読さん仰ぐ」鳥居の存在感がおもしろく描かれている。

「窓の外」宇宙に対する思いが画面にあふれた作品となった。内なる窓を開けてさらなる宇宙に対する思いを高めていただきたい。



市長賞

明日香 / 竹多恵

明日香の村を訪れると、この壮大な景色の中でさまざまな歌が詠まれたのだと清々しい気持ちになり大きく息を吸います。

普段は二尺 × 六尺の紙に和歌を二首書くことが多いのですが、今回は万葉集の歌一首を大胆に、広大な明日香の地をイメージしていただけるよう、筆運び、呼吸・墨の潤濁・余白の美、を意識して制作しました。

京田辺市教育委員会賞

諸悪莫作 / 長根朴雲

お釈迦様以前にもおられたという過去七仏が、人の世で一番大事なことは「諸悪莫作」(悪いことはしてはいけない)だと言われました。

平成最後の年となる今年、政官財・スポーツ界までも、何とこの言葉を必要としたことでしょうか。薪の休禅師も悲しんでおられるでしょう。自戒の念も込めて力一杯書いた作品です。

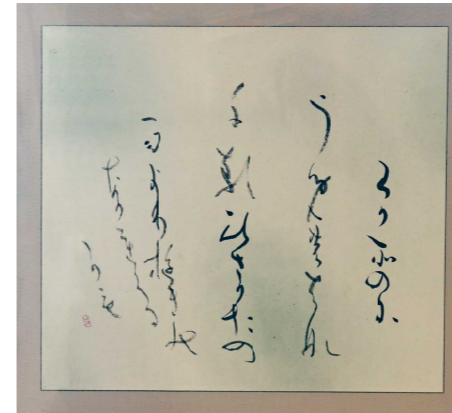


講評

今回も質のよい作品が集まり、4点を選ぶことは困難な作業であったが、その中でも全国どこに出しても恥ずかしくない玉作を本展の入賞作とすることが出来た。今回の作品展、よい作品が集まったのであるが、誤字が散見され、その意味、少々残念な所があった。

漢字の草書体、かなの変体、かなの造形、あるいは詩文の選び方や作品の構成など、熟練の方が少々選外だったこともそのあたりに問題があったのかもしれないので、来年度は是非気をつけてもらいたいところだと思ふ。

審査員 日比野実

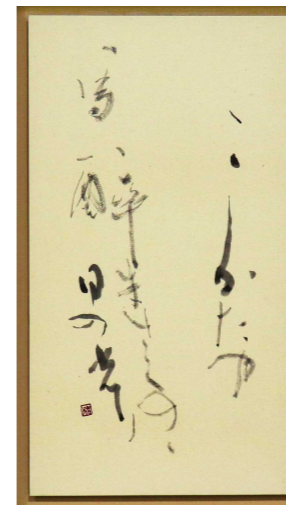


京田辺芸術家協会賞

雪の流れ / 角ふみ

都より遠く離れた赴任地、太宰府での宴席で詠まれた大伴旅人の歌で、梅花の散る様を「天より雪の流れ来る」と譬えています。

春まだ浅い季節の情景や作者の心情を想像して、用紙の色彩や墨の濃淡、空間の広がり、天空から雪の舞い散る様子に無限の広がりを表現したい、という思いで制作しました。



京田辺市文化協会賞

馬酔木 / 中西智美

私は藤本先生のご指導の元、藤本先生や共に勉強している方々から刺激を受けながら書の勉強をしております。

私は藤本先生から、文字の大小や、字と字の間、行と行の間の変化、筆線の太細、墨色の濃淡などが上手に組み合わせられた時かなを美しく表現できると教えていただいています。この作品では、少しずつでもその変化を表現でき、動きや流れを出すことができたと思います。

講評

今年は昨年に増して充実した作品が多く楽しみながら拝見した。漢字作品においては力強い作風が多く、造形に工夫がみられ多彩な作が並んだ。

特に「諸悪莫作」は確かな用筆と深い線で書き進められており、「悪」の悠々とした筆使いがリズムの変化となって効果的であった。このような深く確かな線と造形の中に、墨量や文字の大小などの変化を个性的に展開した作品が授賞の榮譽に輝いたと思う。

しっかりとした学書を基礎とした上に、自身の趣向に叶う変化を楽しむような作品を是非とも次年度は拝見したいと願っている。

審査員 尾西正成



市長賞

ツアー・オブ・ジャパン京都ステージ 輪闘／村山征義

ツアー・オブ・ジャパン IN 京都ステージ、我が、京田辺市の地で開催を撮影3年目。水取清水谷カーブ畦道でレンズを構える。周回が上がる！！先頭集団の選手の闘争心が伝わる！！

この一瞬を捕らえる事が出来た。自身もスポーツサイクル趣味でやっているが、この場面はレースに参戦している気分の作品になりました。



京田辺市教育委員会賞

木津川的一本桜／町田譲

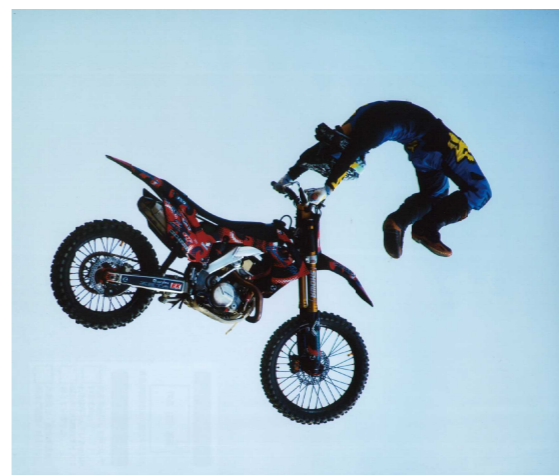
木津川の堤防を散歩していたら、河川敷に桜の木が有り、一番良い時期、早朝日の出を待ち撮影した一枚です。



京田辺芸術家協会賞

新芽の喜び／向平尚武

前日より続いた雨が上がり、さわやかな朝を迎えていた。茶畑では、伸び出した新芽がしっとりとした春の空気を腹いっぱい吸い込んで、喜んでいる様に見えた。



京田辺市文化協会賞

スーパージャンプ／川瀬陽

城陽商工会議所青年部主催で、2/25(日)に開催された「Joyo Super Jump Extreme 2018」を撮ったものです。躍動感溢れる、Motorsportsの醍醐味を表現した作品です。

講評

前回は風景写真の部でしたが、今回から写真の部に変わり少しですが応募点数も増え行事、スナップ等に秀作と出会うことが出来ました。中には平凡な作品もありましたが、今後の市展の発展を祈念して佳作としました。

審査員 山本一